

外国人介護人材サポートセンターを
開設しています

2026.01.30

福島県は、県内介護施設で増加している外国人介護人材の就労と定着を支えるサポートセンターを設置している。

外国人職員同士の交流会を開くほか、受入施設からの相談や職場環境整備を支援する。

事業は福島県老人福祉施設協議会に委託され、介護現場と連携して実施される。

外国人が介護職として継続的に活躍し、福島県内に定着できる環境づくりが目的である。

EPA、技能実習、特定技能など複数の制度で働く人材を
念頭に置いている。

採用だけでなく、入職後の孤立防止や施設側の受入能力向上を重視した施策となっている。



出典：福島県

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/21025a/gaikokujiinnkaigojinnzai.html>

「重要性が増している」外国人労働者1万5079人 3年連続で過去最多更新

2026.02.05

福島労働局の集計によると、2025年10月末の県内外国人労働者は1万5,079人となり、3年連続で過去最多を更新した。

前年から約1,300人、率にして約10%増えている。

産業別では製造業が5,250人で、全体のおよそ3分の1を占めた。

国籍別ではベトナムが4,780人で最も多く、フィリピン2,584人、インドネシア1,784人と続いた。

人手不足を背景に、幅広い業種で外国人材の重要性が高まっている。

労働局は、適正な雇用管理と働きやすい職場環境の整備も一層必要になるとしている。



日本語支援ボランティア養成講座 開催！

2026.04.06

いわき市国際交流協会は、外国人住民の日本語学習を支える地域ボランティアの養成講座を企画した。

5月22日と23日は、新しい日本語交流の場「わいわい」で活動する支援者を対象とした。

グループ運営の方法、日本語で会話を続ける工夫、生活に必要な話題の見つけ方などを学ぶ。

5月24日には、外国にルーツを持つ子どもの日本語支援を扱う別講座も開催した。

講師は国際日本語普及協会の松尾恭子氏で、参加費は無料とされた。

家庭、職場、学校を含む地域で日頃から顔の見える関係を築き、外国人住民の安心と円滑な意思疎通につなげる取組である。



外国にルーツをもつ人たちの 日本語の悩み！ ✓ 話したい事はたくさんあるのに日本語でどう言ったらいいかわからない。 ✓ 頑張って話したのに伝わらない ✓ 発音に自信がない ✓ 話したら笑われた	日時 2/22 日 13:30・16:30
	開催場所 いわき市文化センター 小会議室(3階)
	セミナー内容 第1部 外国人を対象とした直接指導 (日本人参加者はそれを見学)
	第2部 外国人の「話す」力を高めるためには

外国人介護人材フォローアップ研修会

2026.05.11

福島県老人福祉施設協議会は、県内介護施設で働く技能実習生と特定技能1号外国人を対象に、2026年度のフォローアップ研修を実施する。

前期は会津、白河、いわき、後期は福島、郡山の計5会場で開催される。

介護現場で使う日本語、介護の基礎、記録の読み書き、報告、アセスメントシートの理解などを学ぶ。

参加費は無料で、全5回のうち4回以上受講できることを条件とした。

研修には外国人介護職員同士の交流と横のつながりをつくる目的もある。

2025年度は合計64人が参加し、仕事への意欲向上にもつながったとの声が寄せられた。



出典：福島県老人福祉施設協議会 <https://f-roushikyo.or.jp/pages/107/>